

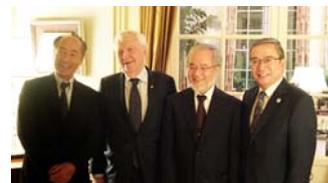
# 東工大 クロニクル



Tokyo Tech Chronicle

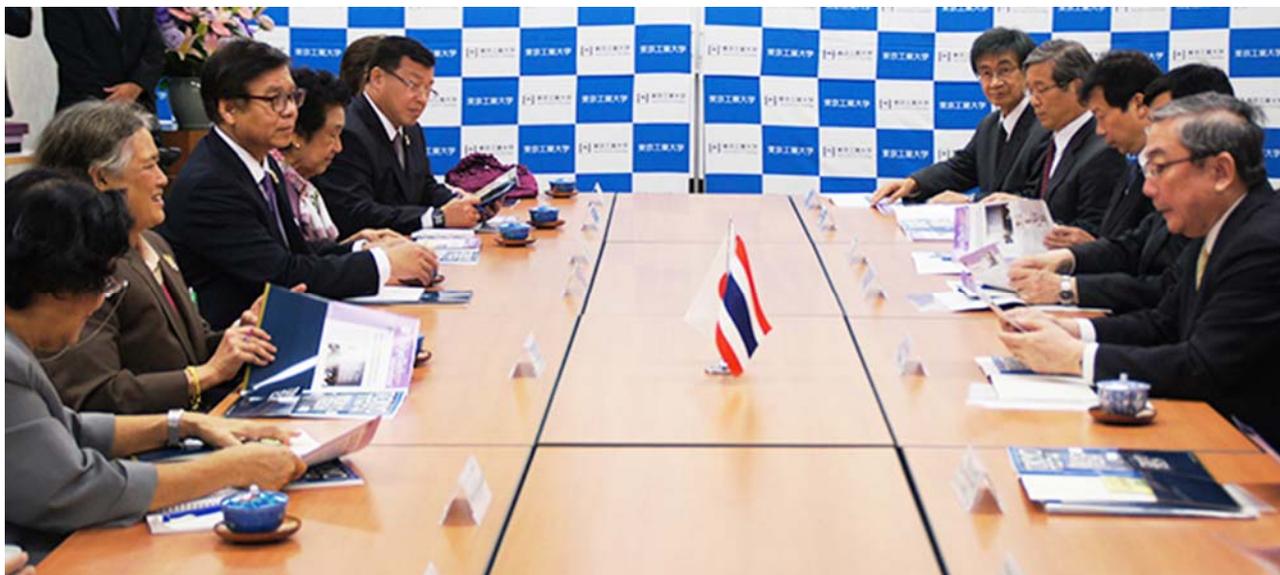
## Contents

- 1 タイ王国シリントーン王女殿下が東工大を訪問
- 3 東工大関係者 3 名が平成 27 年春の叙勲を受章
- 4 本学での男女共同参画活動により  
前学長が女性研究者研究業績・人材育成賞を受賞
- 6 細野秀雄教授が井上春成賞を受賞
- 7 大隅良典栄誉教授  
ガードナー国際賞受賞祝賀レセプションが開催
- 8 東工大レクチャーシアター竣工
- 9 「生命とは何か? —生命科学と複雑系科学—」  
開催報告
- 12 Art at Tokyo Tech 12 年の軌跡
- 29 文明科目のこれまでの経緯と 2015 年度カリキュラム



No. 506  
July 2015

## タイ王国シリントーン王女殿下が東工大を訪問



懇談の様子

4月21日、タイ王国シリントーン王女殿下とタイ石油公社（以下、PTT）の代表者を含む視察団ご一行が東京工業大学を訪問されました。

科学技術分野に大変高い関心をお持ちのシリントーン王女殿下による本学へのご訪問は、2006年に続き2回目です。本学は1985年のチュラロンコン大学との全学協定締結以来、タイ王国の多数の大学や研究機関と連携しています。2002年には、連携強化を図るため、バンコク近郊にタイオフィスを設置しました。2007年6月には、タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）、タイ王国の大学グループと連携して、連携大学院（Thailand Advanced Institute of Science and Technology（以下、TAIST））を設立し、長年に亘って良好な関係を築いています。

今回のご訪問では、三島良直学長との懇談や教員による本学の説明等を受けられた後、王女殿下のご希望により、最新のエネルギー技術を駆使した環境エネルギーイノベーション棟（以下、EEI棟）、地球・生命の起源を解明することを目的として2012年に設立された地球生命研究所（以下、ELSI）を見学されました。



シリントーン王女殿下と三島学長



学生たちによる歓迎

まずは、シリントーン王女殿下を三島学長がお迎えした後、タイ王国と王女殿下のシンボルが入った紫の手旗を持ち正装して出迎えた本学在学中のタイ留学生会 67 名の学生たちの歓迎に、笑顔でお応えになりながら懇談会場へ移られました。

その後、シリントーン王女殿下と、シハサク・プアングゲオ駐日タイ王国特命全権大使、スメート・タンティウエーチャクン博士、ピヤサワット・アマラン博士と本学卒業生で PTT 会長のパイリン・チュチョータウオン博士を含む視察団代表者 8 名と、三島学長以下 8 名による懇談が行われました。最初のご挨拶で 4 月 2 日に 60 歳のお誕生日を迎えられた王女殿下にお祝いの言葉をお贈りすると、王女殿下は笑顔でお応えになるなど、終始和やかな雰囲気での懇談が行われました。

懇談後、その他の視察団メンバーがいる別会場へ移られた王女殿下を水本哲弥副学長、佐藤勲副学長がお迎えし、水本副学長が本学の概要説明を行いました。続いて行われた質疑応答では、教育改革、東工大の国際化、TAIST と本学との教育連携等について、王女殿下及び視察団メンバーより質問がなされました。

会場を出られたシリントーン王女殿下は、タイ人留学生たちと言葉を交わしながら笑顔で贈り物を受け取られ、グループ写真の撮影が行われました。

続いてご一行は EEI 棟を訪れ、伊原学准教授（現・教授、化学工学専攻）より太陽電池の特徴ある設置方法やビルのエネルギーシステム、最先端環境エネルギー技術について説明を受けられました。王女殿下ご一行は、本学のスマートグリッド管理システム「エネスワロー」に高い関心を示され、熱心に質問をされました。伊原准教授は、シリントーン王女殿下と数名の方を EEI 棟屋上へご案内し、排熱を高度に利用する燃料電池システムなどのエネルギー関連設備について説明しました。



水本副学長と王女殿下



EEI 棟にて伊原准教授と



実験について説明をする廣瀬所長

最後に、王女殿下ご一行は ELSI を訪問され、廣瀬敬所長による研究所の設立の背景や目的、研究員の構成に関する説明を受けられました。主な研究の一つである「地球内部の高温高圧の環境再現」を理解していただくために、水に圧力を加えて室温で氷を作る実験に、シリントーン王女殿下にご参加していただきました。実験の様子はスクリーンに映し出され、圧力により水が変化していく様子を視察団一行も観察しました。引き続きジョン・ハーンランド教授・主任研究者（副所長）も加わり、生命の起源、惑星誕生の過程、太陽系外の生命の存在の可能性などについて、活発な質疑応答が行われました。

3 時間半に亘るご訪問中、熱心にメモをとりながら質問をされ、ご自身のカメラで写真を撮られるなど、

王女殿下の科学技術への関心の高さがとても印象的でした。また、シリントーン王女殿下と視察団ご一行を本学にお迎えし、本学の世界的な研究大学を目指す実学に根ざした最先端の教育研究「Tokyo Tech Quality」をご紹介できる機会を得たことは、本学にとって大変光栄なことでした。



シリントーン王女殿下を囲んで

## 東工大関係者 3 名が平成 27 年春の叙勲を受章

平成 27 年春の叙勲において、高橋清名誉教授、藤井光昭名誉教授が瑞宝中綬章を、齋藤臻元総合理工学研究科等事務部長が瑞宝双光章を受章しました。

### 高橋清名誉教授



高橋清名誉教授は、1962 年東京工業大学大学院博士課程を修了し、1964 年工学部助教授に就任しました。1974 年からは教授として、半導体エレクトロニクス、特に光電変換デバイス、薄膜デバイス、中でも太陽光発電、センサ、などの新しい分野で日本の指導的・並びに国際的な研究開発を展開し、更には国際的教育の育成・発展等にも幅広く活躍し、教育・研究の分野で多大な貢献を果たしました。

### 高橋清名誉教授のコメント

「半導体エレクトロニクスの黎明期に、東工大を卒業し、その後半世紀以上にわたり、本学で半導体エレクトロニクス分野の教育・研究に従事することが出来、誠に幸せな研究生活を送ることが出来ました。これも偏に本学の学風はもとより、素晴らしい指導者・先輩・同僚・研究室の優秀な大学院生・学部学生に恵まれた賜物として、この場をお借りしてお礼申し上げます。」

**藤井光昭名誉教授**

藤井光昭名誉教授は、1963年に理学部助手として東京工業大学に着任しました。

その後、工学部助教授、理学部助教授を経て、1977年からは理学部教授として、統計学、ことに時系列解析の分野において多くの研究成果をあげるとともに、国際的な活動も展開し、現在の同分野の発展の基礎を築きました。本学においては、教務部副部長（入試担当）、理学部長、大学院理工学研究科長、大学院情報理工学研究科長、図書館長、Titanet（東工大情報ネットワーク）運営委員会委員長等を歴任し、大学運営に多大な貢献を果たしました。

**藤井光昭名誉教授のコメント**

「学生時代を京大で過ごし、統計学の研究に携わりたいとの希望を持っていたものですから、恩師のお世話で統計数理研究所に就職しました。3年ほどいて、東京工業大学の何人かの先生方から東工大助手として来ないかというお誘いを受け、応募させていただき、幸いにして東工大数学科助手として転任させていただくことができ、その後一般教育、数理・計算科学専攻と所属は変わりましたが、定年まで勤めさせていただくことが出来ました。

東工大では優れた先生方に囲まれ、施設設備など研究環境が整い、優秀な学生さんにいつも若い活力をもらい、何よりも自由で絶えず時代の先端をいく雰囲気のもとで研究をすすめられ、自分では本当に充実した日を過ごさせていただきました。

今回叙勲者の末席に重ねていただきましたが、これもひとえにこれら皆様方のお陰と肝に銘じ、深く感謝の意を表させていただきます。」

**齋藤臻元総合理工学研究科等事務部長**

齋藤臻元総合理工学研究科等事務部長は、1959年11月に東京工業大学に事務員として採用されました。

東工大の人事課、庶務部を経たのち、群馬工業高等専門学校、大阪外国語大学、宇都宮大学、長野工業高等専門学校の整備の拡充と管理運営に尽力しました。

1994年4月から2年間は東京工業大学総合理工学研究科等事務部長として在籍し、豊富な知識と経験を生かし、様々な面で東工大の発展に多大な貢献を果たしました。

**齋藤臻元総合理工学研究科等事務部長のコメント**

「この度の叙勲受章は私にとりまして大変名誉なことであり大きな喜びです。13日には勲記・勲章伝達のあと皇居に参内し、陛下の拝謁の栄に浴し感激の極みでした。

1959年に東京工業大学に奉職、以来38年、その間良き上司、先輩にも恵まれ、また多くの人々とめぐり合い共に仕事が出来たことは大変幸せでした。これら多くの皆様のご指導のお陰と感謝いたしております。」

## 本学での男女共同参画活動により 前学長が女性研究者研究業績・人材育成賞を受賞

伊賀健一前学長（東京工業大学名誉教授）が、応用物理学会による第5回「女性研究者研究業績・人材育成賞（小舘香椎子賞）」を、人材育成部門において受賞しました。

応用物理学会は、応用物理学分野の研究活動において顕著な研究業績をあげた女性研究者・技術者、または、女性研究者・技術者の人材育成に貢献することで科学技術の発展に大いに寄与した研究者・技術者または組織・グループに対し、「女性研究者研究業績・人材育成賞」を贈り、表彰しています。この賞は、小舘香椎子 日本女子大学名誉教授（応用物理学会フェロー）からの寄付を基金として、女性研究者・技術者の活躍の場の拡大を祈念し、設立されたものです。

### 受賞業績

大学・学術振興・学界における男女共同参画活動への持続的貢献



3月11日の授賞式にて 賞の創設者である  
舘香椎子教授(左)と伊賀健一前学長(右)

特に、学長在任中は、本学における男女共同参画推進の礎を築き、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラム等による各種施策を通じて、男女共同参画に向けた意識改革、環境整備、女性研究者の登用などを推進しました。

今回の受賞を受けて、伊賀前学長は以下のようにコメントしています。

2007年に東工大学長になり「女性研究者支援モデル育成」プログラム応募することになったのです。準備委員会を作り、大倉一郎、堤田直子、高田十志和、柳田保子、尾形わかほ、野村淳子の皆さんと作戦を立ててヒヤリングに臨みました。女性研究者、女子学生の割合を増やそう、快適に職務や学業ができる"テイラーメイド型の支援"を骨格としました。採択となった事業の推進時・評価時には、林ゆう子、岡村純、三石ちはる、矢野容子、有山智子、平賀香織さんらが加わりました。企画の1つに、蟻川芳子さんの講演があり有意義なものでした。蟻川さんは筆者と東工大・大学院の同期生で、当時日本女子大学の学長でした。評議員や部局長など大学の運営に責任ある立場の人に対する講演で、意識改革を意図したものでした。その後、構成員の努力により東工大のプログラムは高評価を得たのです。

### 東工大の男女共同参画への取り組み

本学の男女共同参画への取り組みは、2004年、企画室に「男女共同参画に関する検討ワーキンググループ」が設置されたことに始まります。その後、2008年4月に、「男女共同参画ポリシー」「男女共同参画を推進するための基本指針」を策定・公表し、同年5月に文部科学省「女性研究者支援モデル育成」事業に採択され、7月に男女共同参画推進センター（GEC）を設置し、強力に推進していくこととなります。

さらに、2014年には「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されました。女性教職員の比率は、国際化・多様性の指標とされています。「真の国際化」を実現していくためには、男女共同参画を推進する取り組みが、一層緊要となっています。

現在、「ワーク・ライフ・バランス支援」「意識改革」「裾野拡大」「女性同士の交流」「女性研究者増員」という5分野で様々な事業を行っています。ワーク・ライフ・バランスを支援する制度や事業はもちろん男性・女性ともに対象です。具体的な内容については、男女共同参画推進センターのwebサイトをご覧ください。

## 細野秀雄教授が井上春成賞を受賞

細野秀雄教授が、井上春成賞を受賞しました。

「井上春成賞」は、国立研究開発法人科学技術振興機構の前身の一つである新技術開発事業団の初代理事長で、工業技術庁初代長官でもあった井上春成氏が日本の科学技術の発展に貢献した業績に鑑み、新技術開発事業団の創立 15 周年を記念して創設された賞です。

### 研究題目

「酸化半導体 In-Ga-Zn-O スパッタリングターゲットの開発」

### 研究者

東京工業大学 応用セラミックス研究所 教授 細野秀雄

### 開発企業

JX 日鉱日石金属株式会社 代表取締役社長 大井滋

(推薦者: JX 日鉱日石金属株式会社 電材加工事業本部 ユニット長 鈴木章仁)

本技術は、フラットパネルディスプレイの画素電極を駆動する薄膜トランジスタ (TFT) の半導体層に用いられる酸化半導体 In-Ga-Zn-O (インジウム-ガリウム-亜鉛酸化物)、略して IGZO のターゲット材に関するものです。

細野秀雄教授は、高い電子移動度を有する透明アモルファス酸化半導体 (TAOS) の設計指針を 1995 年に独自に提唱し、2004 年には、TAOS の一つである IGZO を活性層に使った TFT をプラスチック基板上に作製し、従来のアモルファスシリコンの約 20 倍という高い移動度が得られることを Nature に報告しました。本論文は、酸化半導体で容易に高性能 TFT ができるということを初めて示したもので、これをきっかけに国内外の多くの会社が IGZO に注目し IGZO-TFT の実用化に向けた研究開発が始まりました。

そのような状況で、JX 日鉱日石金属は、高純度、高密度、均一微細な微構造のターゲットの開発を進め、2011 年には他社に先駆け、初めて 8.5 世代成膜装置に対応する大型スパッタリングターゲット (長さ 2.7 メートル) の量産化に成功しました。

JX 日鉱日石金属のターゲット材を用い、国内外のパネルメーカーが、欠陥の少ない IGZO 薄膜を高い歩留りで制作できることを確認できたことにより、IGZO-TFT を用いたディスプレイの実用化が本格的に始まりました。IGZO-TFT 搭載のディスプレイは、高精細、低消費電力といった優れた性能により評価され、今後ますますの市場拡大が見込まれています。また、IGZO-TFT は有機 EL ディスプレイやフレキシブルディスプレイへの適用も期待されており、製造プロセスの上流にある IGZO ターゲット材料の開発の重要性も増しています。



細野秀雄教授

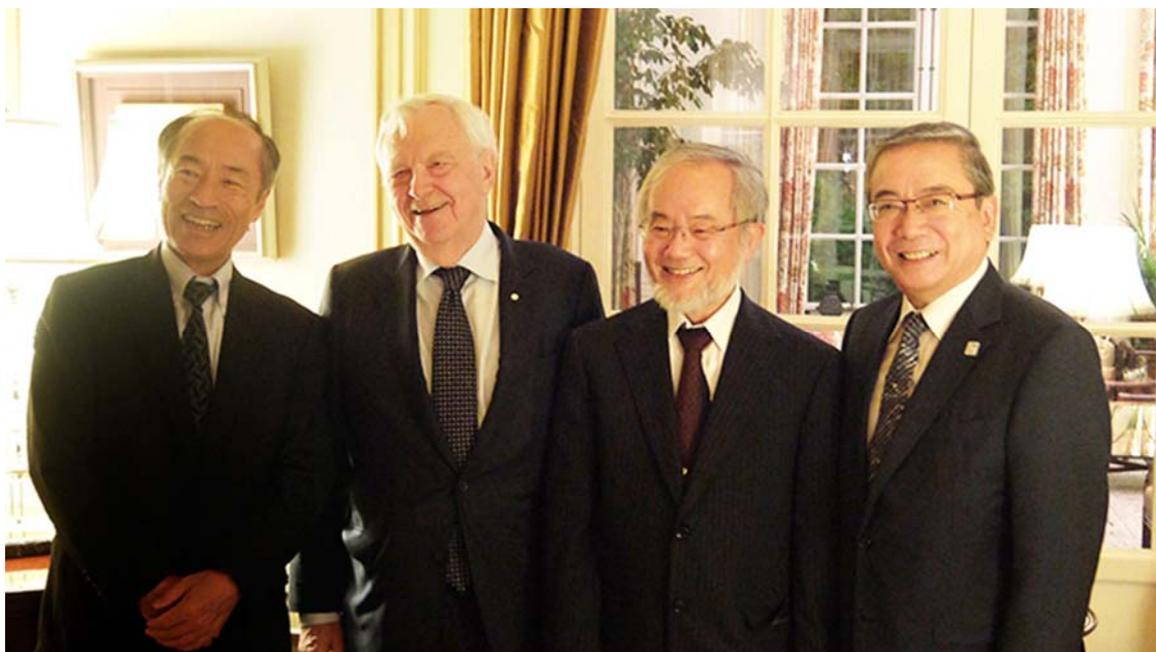
### 細野秀雄教授のコメント

「IGZO-TFT は、2003 年に結晶について Science 誌に、2004 年にはアモルファスについて Nature 誌に最初の論文を掲載しました。また、その前に JST から特許申請を済ませました。IGZO-TFT のディスプレイ応用には、大型ガラス基板上にスパッタリングでその薄膜を形成するための、大型で緻密なセラミックスのターゲットが不可欠です。今回、共同受賞する JX 日鉱日石金属は、最初にその技術を完成させ、2010 年で東工大が主催した国際ワークショップ (TAOS 2010) の際に実物を展示しました。これによって実用化の準備が整いつつあることが参加者に伝わりました。また、特許ライセンスを最初に受け製品化に成功しました。

その後、内外の多くの企業がそれに倣っています。同社の高い技術力とモラルに敬意を表します。」

## 大隅良典栄誉教授 ガードナー国際賞受賞祝賀レセプションが開催

2015年ガードナー国際賞を受賞する東京工業大学フロンティア研究機構の大隅良典栄誉教授らの祝賀レセプションが6月18日、マッケンジー・クラグストン駐日カナダ大使、ジョン・ダークス ガードナー財団理事長の出席の下、在日カナダ大使公邸において開催されました。



左から、大谷理事・副学長、ダークス理事長、大隅栄誉教授、三島学長

クラグストン大使の歓迎の挨拶と大隅教授らの業績の紹介に続いて、ダークス理事長より日本人のガードナー受賞者数は12人を数え、生命科学分野における日本の研究水準の高さへの賞賛がありました。大隅教授は「オートファジーの研究を始めたころは、なかなか理解されず役に立つかどうか分かりませんでした。27年間研究を続けてきて、様々な分野の研究領域に広がりつつあることを大変嬉しく思います。研究者として基礎研究の重要性を改めて強調したいと思います」と挨拶しました。



公邸の庭園にて



レセプションの様子

レセプションには、同時に受賞した大阪大学免疫学フロンティアセンターの坂口志文教授や過去のガードナー賞受賞者、三島良直学長、大谷清理事・副学長ら約 100 名が参加し、梅雨の合間の美しい公邸の庭園を楽しみました。

授賞式は 2015 年 10 月 29 日にカナダ・トロントで開催されます。

## 東工大レクチャーシアター竣工



レクチャーシアター外観

東工大では現在、2016 年 4 月スタートに向けて、教育システムの抜本的な改革を進めています。そのための新しい教育環境整備の一環として、大岡山キャンパス西 5 号館 3 階 W531 講義室を「東工大レクチャーシアター」に改修し、4 月 3 日にお披露目会を開催しました。

「東工大レクチャーシアター」では、本学最先端研究者並びに国内外から最先端の研究者やノーベル賞級の発見・発明者を講師として招き、主に初年次の学生を対象に、創造的討論や実験の実演を伴った講義を開講します。

学生が、科学・技術の最先端を体感し、奥深さ、楽しさを再発見することにより、理工系の専門を学ぶ動機を得て、夢を膨らませるための環境です。



実験について説明する廣瀬学長

三島学長によるご挨拶



スクリーンに見入る学長たち



臨場感伝わる空間



多様なプレゼンテーション対応の演台



快適な座り心地の座席

## 設計コンセプト

最先端研究の実験講義を実現するため、従来の講義室とはまったく異なるレクチャーシアターを整備するという方針のもと、本改修設計においては、魅せられる講義、臨場感のある演出が実現できるよう、下記の項目を考慮し、計画を行いました。

## 空間

既存の限られた構造空間の中で、階段座席の傾斜を急勾配にして演台を取り囲む配置にすることにより、どの席へも臨場感の伝わる平面及び断面計画としました。

## 演台

講師が講義・実験を行う場所は、段差の無いフラットな床を広くとり、スクリーン2枚、電子黒板1台を配備し、前面の壁は全て黒板塗装を施して、多様なプレゼンテーションに対応できるように工夫しました。

## オペレーター室

レクチャーシアター内の照明や音響設備等の調整を、講義に支障をきたさずに一貫して行えるようにオペレーター室を設けました。

## 照明による空間演出

照明パターンを多数用意し、多様な講義・実験スタイルに合わせて最適な照明演出ができるように工夫しました。

## 座席

固定座席は劇場仕様のシートを用いて、快適な座り心地を追求しながらも必要座席数を確保し、シンプルで自由なスタイルで聴講ができると共に、講義ノートが取れる収納型机を各座席に配備しました。

# 「生命とは何か？ —生命科学と複雑系科学—」 開催報告

この講座は、東工大基金を活用した日本再生プロジェクト「ものづくり人材のすそ野拡大支援」事業の支援を受けて行われました。

近年の生命科学は生命現象を要素に分解して理解しようとする要素還元型の研究手法によって、生命現象の構成要素（DNA、タンパク質、細胞など）の構造と機能が明らかにされてきていますが、未だに“生命とは何か？”に対する明確な答えは得られていません。そこで、将来の生命科学の発展には、これらの構成要素の関連性、協調性、統合性など生命現象全体の振る舞いや創発性に焦点を置く「複雑系科学」の研究手法が必要不可欠になると考えられています。今回の公開講座では、この複雑系科学の例として Belousov-Zhabotinsky (BZ) 反応をモデルとして使いました。

公開講座用ポスター



BZ 反応動画の画像解析

BZ 反応とは化学者ペロウソフが 1951 年に発見した化学現象です。ペロウソフは単純な「化学反応が複雑なリズムやパターンを作り出す」ということを世界で初めて報告しましたが、この奇妙な現象は当時の学問の世界では認められませんでした。しかし後に、化学者ジャボチンスキーがペロウソフの追試実験を行い、化学反応のリズムがより明瞭な形で現れる系を確立し、学会で認められ、2 人の名前をとって、Belousov-Zhabotinsky (BZ) 反応と呼ばれるようになりました。現在では非線形化学振動反応（複雑系のモデル反応の一つ）として有名です。公開講座では、この化学反応系の時間的秩序※1、空間的なパターンダイナミクス※2、さらにはパターンの創発現象※3に着目して、注意深く観察することにより、化学反応と生命系の振る舞いと類似性を理解し、考えることを目的としました。BZ 反応においてのマロン酸は生命系における食物、臭素酸カリウムは酸素、フェロインは酵素に対比できます。つまり、BZ 反応は生命系の代謝回路のモデル

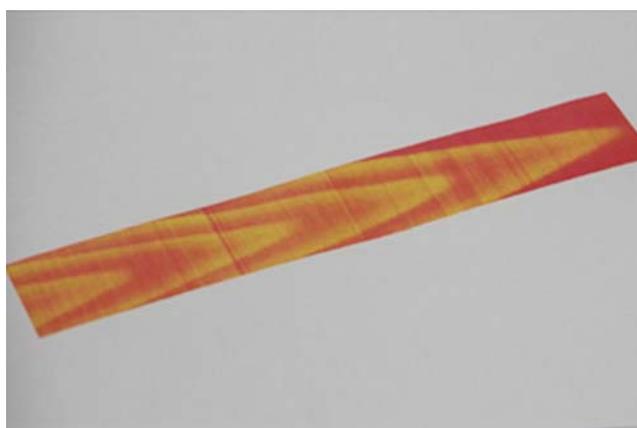
でもあり、このような観点から、高校生が生命現象を複雑系科学という新たな切り口で見つめるためにコンピュータ画像解析も取り入れました。

まず、濱口幸久名誉教授からの「生物である私たちの体は一個の受精卵が、46回の細胞分裂を繰り返すことで生じる60兆個の細胞からできていて、この細胞分裂のたびに『サイクリン』というタンパク質の量が増減するリズムが認められます。このようなリズムを今回観察するBZ反応でも観ることができます」という話から始まりました。

実際の実験は、BZ反応のための試薬を混ぜると反応が開始します。そして、パターンが形成され、色調が変化する様子をデジタルカメラに録画しました。この動画をコンピュータに取り込み、ImageJというソフトで画像解析を行いました。一定域の画像を時間経過で並べて一定域の時間的連続変化が判別できる画像（キモグラフ）を作成しました。このようなキモグラフからBZ反応の時間的な色調変化、パターン変化、反応速度などを理解することができます。



BZ 反応中のシャーレ



BZ 反応のキモグラフ



溶液中にツバメ型のろ紙を入れた時のBZ反応

終了後、高校生から「興味深い実験と講義を体験し、反応という初めて学ぶ化学現象を通して、生物学だけでなく化学、そして物理学にまで幅広い知識を得ることができ、次回も参加したい。ありがとうございました。」といったメールが寄せられました。参加者は複雑系科学の現象から生命系を考えるきっかけを得て、大変意義のある公開講座になったようです。

- ※1 時間的秩序：規則正しく反応溶液の色調が変化すること。生命系における拍動、呼吸、サーカディアンリズムなど。
- ※2 パターンダイナミクス：反応溶液の色調変化によるパターンの時間的変化、リズムの出現、空間的な秩序など。発生、形態形成、成長など。
- ※3 創発現象：部分の性質の単純な総和にとどまらない性質が、全体として現れること。

# Art at Tokyo Tech 12年の軌跡

名誉教授 前西9号館芸術文化ワーキング委員長 肥田野 登

Art at Tokyo Techは東工大の芸術活動として2004年秋に開始されました。これまで学内外の多くの方のご支援とご尽力で、2015年の現在に至るまで、12年間継続することが出来ました。そこで、ここでは、Art at Tokyo Techの展開と教訓を、私見を交え述べさせていただきます。

## Art at Tokyo Techの展開

東工大と芸術の関係は非常に深く、1881年の設立当時から、主要輸出工業製品であった絹や陶器の製作にあたっては、芸術性が重視され、板谷波山（文化勲章受章者）、浜田庄司（同）から人間国宝 島岡達三などにいたる、錚錚たる人が関わり、建築分野でも、谷口吉郎（文化勲章受章者）、篠原一男（ベネチアビエンナーレ特別賞受賞）につながる系譜がこの伝統を継承しています。更に、これらの、造形芸術ばかりでなく、時間芸術の音楽においても、すでに第2次世界大戦以前から、1920年代につくられた世界最高ピアノである、ドイツ、ベヒシュタイン社のフルコンサートグランドピアノを用いた授業がおこなわれていました。

Art at Tokyo Techはこれらの伝統に立脚し、東工大にArtを再興する為に企画された活動です。最初の行事は2004年秋に、大岡山キャンパスの西9号館の竣工記念として行なわれました。この活動の特色は、1) 有名か無名か、年齢に関わらず、また東工大との関係があるかによらず、世界の真に実力のある芸術家を招聘し、2) 西9号館を中心とした芸術空間の創造と連動し、3) 学生教職員を巻き込んでいる、の3点に有ります。従って、学外有名タレントの公演を中心とする活動とは一線を画しています。表1に、これまで西9号館多目的デジタルホール（290名弱の収容人数）で行った、76回のメインイベントのタイトル、出演者を示しました。

表1 Art at Tokyo Techのメインイベント

	開催日	シリーズテーマ	タイトル	公演者等	参加人数	授業との関係	学生の出演	展覧会
1	2004年11月7日 (日)15:00-	東工大大岡山キャンパス西9号館完成イベント パフォーマンスシーク 東工大でアートする	『美、歴史、自然』ギャラリートークと民族芸能演奏	ヨルク・シュマイサー(京都市立芸術大学教授) バナナサーン・スリチャイ(学生) マジャーセディギ(学生)	約70名		有	
2	2004年11月8日 (月)17:00-	パフォーマンスシーク 東工大でアートする上	東京工業大学西9号館完成祝賀会ピアノ演奏会	首藤亜希(ピアノ)	約200名			

3	2004年11月9日 (火)17:00-18:30	パフォーマンス 東工大でア ートする	『イマジネーションを 抱きしめて』	唐 十郎(劇作家・俳優)、ロジャー・ パルバース	約290名			
4	2004年11月10日 (水)18:00-19:30	パフォーマンス 東工大でア ートする	ジャズコンサート (クインテット) 『Jazzは生まれたば かりだ』	高瀬龍一(トランペット)、安保 徹(テ ナーサックス)、荒巻茂生(ベース)、 原 大(ドラムス)、元岡一英(ピアノ)	約190名			
5	2005年4月23日 (土)16:30-18:00		春のイブニングコン サート	久住綾子(ピアノ)、末永隆一(指 揮)、東京工業大学管弦楽団(管弦 楽)	約250名		有	
6	2005年4月26日 (火)17:30-18:30		ベヒシュタインピアノ 復帰記念コンサート	首藤亜希(ピアノ)	約180名			
7	2005年5月12日 (木)18:30-19:20		ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約200名		有	
8	2005年6月7日 (火)18:00-20:30		映画と朗読	岸田今日子 ロジャー・パルバース	約200名			
9	2005年10月12日 (水)18:00-		東京工業大学学生 による演奏会	中村友輝(ピアノ) 東京工業大学管弦楽団メンバーによ る弦楽合奏、木管五重奏	約200名		有	
10	2005年10月26日 (水)18:00-20:15		ジャズコンサート・大 口純一郎トリオ	大口純一郎(東工大卒業生・ピア ノ)、原 大(ドラムス)、米木康志 (ベース)	約120名			
11	2005年11月15日 (火)18:00-19:00		ピアノ独奏会	安部可菜子(ピアノ)	約150名			
12	2005年12月7日 (水)18:00-19:00		ピアノデュオ演奏会	鍋野美帆(ピアノ)、鍋野海香(学生・ ピアノ)	約180名		有	
13	2006年4月23日 (日)14:00-15:30	音楽、美術、演劇の コラボレーション	オーケストラ・キャン プリエコンサート	中村友輝(ピアノ)、吉成とも子(ヴァ イオリン)、オーケストラ・キャンプリエ (管弦楽団)	約200名		有	
14	2006年4月25日 (火)19:00-20:45	音楽、美術、演劇の コラボレーション	加藤英介ジャズカル テット演奏会	加藤英介(ピアノ)、林正男(ベー ス)、小松伸之(ドラムス)、井手直行 (サックス)	約200名			
15	2006年5月15日 (月)19:00-20:40	音楽、美術、演劇の コラボレーション	ジョン・チャヌヴァイ オリンリサイタル	ジョン・チャヌ(ヴァイオリン)、武田香 奈子(ピアノ)	約200名			
16	2006年5月23日	音楽、美術、演劇の	イツセー尾形のパフ	イツセー尾形	約300名			

	(火)19:00-20:30	コラボレーション	オーマンス	森田雄三(演出家)				
17	2006年6月27日 (火)19:00-20:30	音楽、美術、演劇の コラボレーション	ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約180名			有
18	2006年10月17日 (火)19:00-20:30	時空を超える世界 芸術のコラボレーシ ョン	山本寛斎のトーク 「人間賛歌」	山本寛斎(パフォーマー)	約220名			
19	2006年11月7日 (火)19:00-20:30	時空を超える世界 芸術のコラボレーシ ョン	ピアノとヴァイオリン の饗宴	松原亮子(ピアノ)、掃部彰子(ヴァイ オリン)	約250名			
20	2006年11月30日 (木)19:00-21:15	時空を超える世界 芸術のコラボレーシ ョン	軽妙洒脱なタペ 「フランス風アンオ ーソックスピアノリサ イタル」 ・喜劇「記者たち」と トーク	村上千佳(ピアノ) ロジャー・パルパース(作、演出) 出演:ふるたこうこ、大谷賢治郎、長畑 豊	約150名			
21	2006年12月18日 19日(月、火)15:00 -17:00 19:00-21:00	時空を超える世界 芸術のコラボレーシ ョン	『サウンドインスタレ ーションの地平』	石渡 誠、小林良穂、関根雅人、春山 トモユキ	約150名			
22	2007年5月15日 (火)19:00-20:30	真の芸術家との美 の創造	『ドルチェカントのタ ペ』	小川えみ(ソプラノ)、碓井俊樹(ピア ノ)	約200名			
23	2007年7月1日 (日)19:00-20:20	真の芸術家との美 の創造	ハープ演奏とTALK 『西のハーピスト東 へのたび;JSパッハ から黛、細川まで』	フローレンス・シトラック(ハープ、ジュ ネープコンセルバトワール)	約240名	文明 科目		
24	2007年7月4日 (水)19:00-20:30	真の芸術家との美 の創造	ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約160名			有
25	2007年7月9日 (月)19:00-20:40	真の芸術家との美 の創造	コンテンポラリーダ ンス『2月のマーチ』	マドモアゼル・シネマ(ダンス) 藤田佐和子(ピアノ) ロバン・デュブイ(ベース)	約150名			
26	2007年10月10日 (水)19:00-20:30	異邦からのまなざし I ジャン・ローレン・サ スポータスからジャ コメッティまで	舞踏家・ジャン・ロー レン・サスポータスと 齋藤徹のコントラバ スのデュオ	ジャン・ローレン・サスポータス(ダン ス、プッパタール) 齋藤徹(コントラバス)	約180名			

27	2007年11月21日 (水)19:00-20:30	異邦からのまなざし I ジャン・ローレン・サ スポータスからジャ コメッティまで	講演「表現の温度: ペインティングと脱 構築」	大城カズ(アーティスト、ロサンゼル ス)	約70名	文明 科目		展 覧 会
28	2007年12月9日 (日)15:00-16:30	異邦からのまなざし I ジャン・ローレン・サ スポータスからジャ コメッティまで	東京ヴォイスセッ ション演奏会	東京ヴォイスセッション(混声合唱)	約70名			
29	2007年12月10日 (月)19:00-20:30	異邦からのまなざし I ジャン・ローレン・サ スポータスからジャ コメッティまで	講演「異邦からのま なざし:ジャコメッ ティと矢内原」	アンジェラ・シュナイダー(美術史家、 ベルリン新美術館) 森宏之、青木雅英、生野秀明、兼先 宏典、塚本隆史(学生・木管五重奏)	約70名		有	
30	2008年6月3日 (火)18:00-20:30	異邦からのまなざし II 身体の躍動	ダンスシアター《地 から天へ、天から地 へ》	ジャン・ローレン・サスポータス(ダン ス) 齋藤徹(コントラバス) 東工大学生	約130名	文明 科目	有	
31	2008年6月10日 (火)18:30-20:00	異邦からのまなざし II 身体の躍動	カジミア・ブゾフス キーピアノリサイタ ル	カジミア・ブゾフスキー(ピアノ、ポ ーランド)	約280名			
32	2008年6月16日 (月)18:30-20:00	異邦からのまなざし II 身体の躍動	村上千佳ピアノリサ イタル	村上千佳(ピアノ)	約220名			
33	2008年7月2日 (水)18:30-20:00	異邦からのまなざし II 身体の躍動	ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約160名		有	
34	2008年7月8日 (火)18:30-20:00	異邦からのまなざし II 身体の躍動	一人芝居「広島にチ ンチン電車の鐘が 鳴る」	蒔村三枝子(俳優)	約100名			
35	2008年11月13日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし III 新しい音を求め て	川畑伊知郎リサイタ ル「ピアノはうたう」	川畑伊知郎(学生・ピアノ)	約170名		有	
36	2008年11月20日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし III 新しい音を求め て	ジョン・ウィーズ パ フォーマンス“Circle Snare”	ジョン・ウィーズ(ノイズアーティスト、 アメリカ)	約70名	文明 科目		展 覧 会
37	2008年11月26日 (水)18:30-20:00	異邦からのまなざし III 新しい音を求め て	鈴木昭男 パフォー マンス“Life”	鈴木昭男(ノイズレス音楽家、アーテ ィスト)	約80名			展 覧 会

38	2008年12月11日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし III 新しい音を求めて	アンサンブルトリコ ルドコンサート	アンサンブル トリコルド	約100名			
39	2009年5月7日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし IV 一瞬の輝き無限の時間	ロバート・フィッシャ ー講演会 《Few Landmarks and No Boundaries》	ロバート・フィッシャー(アーティスト、 ニューヨーク)	約40名	文明、 専門科目		展 覧 会
40	2009年6月11日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし IV 一瞬の輝き無限の時間	村上千佳、小山み どりコンサート 《空間に戯れる音の 遊び》	村上千佳(ピアノ) 小山みどり(チェロ)	約150名	専門 科目		
41	2009年7月8日 (水)18:30-20:00	異邦からのまなざし IV 一瞬の輝き無限の時間	ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約180名		有	
42	2009年7月21日 (火)18:30-20:00	異邦からのまなざし IV 一瞬の輝き無限の時間	興津典明ギターリサ イタル 《ナポリ生まれはウ ィーン、パリ、そして 世界を制す》	興津典明(ギター)	約70名			
43	2009年11月25日 (水)19:00-20:30	異邦からのまなざし V 自然の声	稲川有徳ハーモニ カリサイタル《自然 の震え》	稲川有徳(ハーモニカ)、島山正成 (ピアノ)	約110名		有	
44	2009年12月2日 (水)19:00-20:30	異邦からのまなざし V 自然の声	澤菜穂子ヴァイオリ ンコンサート《木魂 する自然》	澤菜穂子(ヴァイオリン) 南部麻里(ピアノ)	約120名			
45	2009年12月17日 (木)19:00-20:30	異邦からのまなざし V 自然の声	ウツラ・ピルッティヤ ルヴィ ヨイクコンサ ート《沈黙する自然》	ウツラ・ピルッティヤルヴィ(アーティ スト、フィンランド) フローデ・フェルハイム(プロデュー サー、ノルウェー)	約90名			
46	2010年1月12日 (火)19:00-20:30	異邦からのまなざし V 自然の声	ホアン・クルス講演 会《Trying to tell a story》	ホアン・クルス(アーティスト、ロンド ン)	約50名	文明 科目		展 覧 会
47	2010年6月22日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし VI 北と南の風景	『壊晴彦 シェイクス ピアを遊ぶ』	壊晴彦(俳優・演出家)	約120名	専門 科目		
48	2010年7月14日	異邦からのまなざし	ラテンジャズビッグ	ロス・ガラチェロス(学生)	約180名		有	

	(木) 18:30-20:00	VI 北と南の風景	バンドコンサート					
49	2010年7月22日 (水) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VI 北と南の風景	わだ じゅんこ ハン スベータークーン ダンスパフォーマンス 『Chidori VI』	和田淳子(ダンス、ベルリン) ハンス・ペーター・クーン(作曲家、ベ ルリン)	約 50 名	専門 科目		
50	2010年7月27日 (火) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VI 北と南の風景	サンチャゴ ククル 講演会『日常のニ ュアンス』	サンティアゴ・ククル(インスタレーショ ンアーティスト、ミルウォーキー)	約 30 名	文明、 専門 科目		展 覧 会
51	2010年12月13日 (月) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VII 未知の場所の 風の音	アカガワ キンジ 講演会《Public Art? Context? Content?》	アカガワ キンジ(パブリックアーティ スト、ミネアポリス芸術大学)	約 30 名	文明 科目		展 覧 会
52	2010年12月16日 (木) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VII 未知の場所の 風の音	『作曲家と私』	稲岡千架(ピアノ)	約 70 名			
53	2011年1月17日 (月) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VII 未知の場所の 風の音	エスター・パルテガ ス 講演会『Less World / More World』	エスター・パルテガス(アーティスト、 ニューヨーク)	約 30 名	文明 科目		展 覧 会
54	2011年1月18日 (火) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VII 未知の場所の 風の音	渡辺一枝 朗読と音 楽『風の馬ールン タ』	渡辺一枝(作家、写真家) テンジン・ドゥンドゥップ(演奏、チベッ ト)	約 60 名			
55	2011年5月31日 (火) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VIII 色が音になる	ジャズクワルテット 『Shinpei with Friends 演奏会』	井上信平(フルート)	約 225 名	専門 科目		
56	2011年7月5日 (火) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VIII 色が音になる	『ブルガリアと世界 からのインプレッシ ョン』	デシスラヴァ・チヨロコヴァ(ヴァイオリ ン、ブルガリア)アレキサンダー・リア オス(ピアノ、ブルガリア)	約 100 名	専門 科目		
57	2011年7月6日 (水) 18:30-20:00	異邦からのまなざし VIII 色が音になる	ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約 230 名		有	
58	2011年11月14日 (月) 18:30-20:00	異邦からのまなざし IX 音が色彩になる	ヴァイオリン ピア ノ 鼓(つづみ)の競 演	村上千佳(ピアノ) 澤菜穂子(ヴァイオリン) 堅田喜三代(鼓)	約 210 名			
59	2011年11月29日 (火) 18:30-20:00	異邦からのまなざし IX 音が色彩になる	鈴木昭男の音楽と ダンス『Palette of sound』	鈴木昭男(創作楽器) 宮北裕美(ダンス)	約 140 名			

60	2012年1月12日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし IX 音が色彩になる	ダフネ・フィッツパトリック講演会 『Sound into color』	ダフネ・フィッツパトリック(アーティスト、エール大学)	約35名	文明 科目		展 覧 会
61	2012年7月4日 (水)18:30-20:00	異邦からのまなざし X 水の感性	ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約190名	専門 科目	有	
62	2012年7月12日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし X 水の感性	AARON VAN DYKE 講演会「反映としての水: Photography Picturing Itself」	アーロン・フォン・ダイク(アーティスト、ミネアポリス)	約60名	文明、 専門 科目		展 覧 会
63	2012年7月19日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし X 水の感性	ピアノとサクソフォンの共演「すべてを映し出すもの」	末永匡(ピアノ) 大石将紀(サクソフォン)	約120名	専門 科目		
64	2012年12月6日 (木)18:30-20:00	異邦からのまなざし XI 水のように	開発好明 講演会 「初期の洗剤の作品からドラゴン作品まで」	開発好明(アーティスト)	約45名	文明 科目		展 覧 会
65	2013年1月15日 (火)18:30-20:00	異邦からのまなざし XI 水のように	『日本の音、鳴物の魅力～本当は今も生きている、忘れかけた日本の調べ』	堅田喜三代(打楽器) 笛 鳳聲千晴(笛) 三味線 在原富士江(三味線)	約85名			
66	2013年2月27日 (水)18:30-20:00	異邦からのまなざし XI 水のように	「ホワイト・サークル・オン・ザ・ブラック・フロアー(White circle on the black floor)」	松本大樹(ダンス) 奥田純子(ダンス) 萩森英明(ピアノ)	約70名			
68	2013年7月18日 (木)18:30-20:40	ベヒシュタインピアノ 製造90年記念プログラム	講演「ベヒシュタインピアノと東工大」 講演「ピタゴラスに始まるピアノ発達の歴史」 第2回公開オーディション ピアノコンサート	肥田野 登、戸塚亮一 末永匡(オーディション審査、ピアノ演奏)	約100名		有	
69	2013年7月24日	ベヒシュタインピアノ	ラテンジャズビッグ	ロス・ガラチェロス(学生)	約170名		有	

	(水)18:30-20:00	製造 90 年記念プロ グラム	バンドコンサート					
70	2013 年 10 月 15 日 (火)18:30-20:00	ベヒシュタインピアノ 製造 90 年記念プロ グラム	講演「日本のピアノ 界の繁栄とその中 で失われたもの」 講演「ドイツ中規模 企業のマネージメン トーピアノ製造、芸 術、ピアノのような 手工業製品の原理 ー」	諸石幸生(音楽評論家)、カール・シ ュルツェ(ベルリン)	約 50 名	専門 科目		
71	2013 年 10 月 28 日 (月)18:30-20:00	ベヒシュタインピアノ 製造 90 年記念プロ グラム	演奏会「20 世紀の 音楽」	村上千佳(ピアノ)	約 140 名	専門 科目		
72	2013 年 10 月 30 日 (水)14:00-19:00	ベヒシュタインピアノ 製造 90 年記念プロ グラム	イヴ・アンリ教授の 公開マスタークラス と演奏会	イヴ・アンリ(指導、パリコンセルバト ワール) 山野花穂、岸本史直、川村弥、三宅 雅也、遠藤直輝、竹森那由多(受講 者)	約 110 名	専門 科目	有	
73	2013 年 10 月 31 日 (木)18:30-20:00	ベヒシュタインピアノ 製造 90 年記念プロ グラム	イヴ・アンリ教授に よるレクチャーコン サート 「ピアノの技術的進 化と 19 世紀のピアノ 作品との関係 ーシ ューベルト、ショパ ン、シューマン、リス ト、ラフマニノフ、ドビ ュッシーおよびラヴ ェルの作品ー」	イヴ・アンリ(講演・ピアノ)	約 170 名	専門 科目		
74	2014 年 6 月 4 日 (水)18:30-20:15	目を軽くとして	コンテンポラリーダ ンス「私の東京物 語」	伊藤直子(振付)東工大学生 マドモアゼル・シネマ(ダンス)	約 60 名	文明 科目	有	
75	2014 年 6 月 24 日 (火)18:30-20:00	目を軽くとして	薩摩琵琶演奏会「琵 琶-Blindness-~闇 に聴く音、闇に見る	北原香菜子(薩摩琵琶)	約 70 名			

			音〜」				
76	2014年7月16日 (水)18:30-20:00	目を軽くとして	ラテンジャズビッグ バンドコンサート	ロス・ガラチェロス(学生)	約160名		有

これらの特色をもう少し詳しくみてみましょう。第1の特色は、2004-6年にかけては女優の岸田今日子、一人芝居のイッセー尾形など一般的に有名な方もお招きいたしました。それ以降は、国際的に活躍されているアメリカのロブフィシャー、英国のホアン・クルス、日本の鈴木昭男など芸術家、著名な美術史家であるドイツのアンジェラ・シュナイダー、あるいは学生などが中心となっていることから国際的に Art at Tokyo Tech が展開してきたことが理解できます。

第2の特色は、西9号館のホールおよび建物には、オーストラリアのヨルク・シュマイサーが南極を訪れ、作成した氷山の芸術作品や前述の東工大の宝の一つで有るベヒシュタインピアノが展示され、また矢萩喜徳郎のホール入り口付近に有る情報ボード、西9号館西の1階付近の石のベンチなど一体になって芸術空間を作り上げています。

第3の特色に関しては、Art at Tokyo Tech のメインイベントは表1に示すように、東工大の正規授業（文明科目、専門科目）と連動し、力の有る演奏家によるプロムナードコンサート（西9号館ホールのお昼のイベント、表2参照）、またオーディションによって選ばれた学生諸君や教職員による、エントランスホールコンサート（西9号館入り口のエントランスホールで実施、表3参照）、の開催やベヒシュタインピアノボランティアの会のメンバーによるピアノのメンテナンスが日常的に行われていますことから理解できます。

表2 プロムナードコンサート

\*は東工大関係者

	開催日等	内容	出演者等	参加人数
1	2005年7月1日	プロムナードコンサート	*中村友輝(ピアノ)	約180名
2	2005年7月13日	プロムナードコンサート	*西原瑞穂(ピアノ)	約130名
3	2005年10月5日	プロムナードコンサート	上田奈緒(クラリネット)、吉田書子(ピアノ)	約100名
4	2005年11月2日	プロムナードコンサート	*佐藤彰子、原田亮子、中実穂(ピアノ三重奏)	約150名
5	2005年11月18日	プロムナードコンサート	*久保静(ヴァイオリン)、栗山みなみ(ピアノ)	約50名
6	2005年12月16日	プロムナードコンサート	*内藤小容子(ピアノ)、*伊藤和太(ピアノ)、 *押鐘浩之(チェロ)、*中村友輝(ピアノ)	約150名
7	2006年11月21日	プロムナードコンサート	*久保静(ヴァイオリン)、矢崎貴子(ピアノ)	約60名
8	2006年12月20日	プロムナードコンサート	*稲川有徳(ハーモニカ)、和谷康扶(共演)、 和谷麻里子(ピアノ)	約150名
9	2007年5月8日	プロムナードコンサート	斎藤冴子(ピアノ)*ほか	約100名

10	2007年6月9日	プロムナードコンサート	*長谷川仁士(古楽器から現代楽器) ほか	約100名
11	2007年12月13日	プロムナードコンサート	斎藤冴子(ピアノ)	約60名
12	2007年12月23日	プロムナードコンサート	*六角橋吹奏楽団(クラリネット四重奏)	約90名
13	2008年7月20日	プロムナードコンサート	前半:*実吉敬二(ピアノ)、*藤田紀弥子(ヴァイオリン)、*西野入知穂(ソプラノ) 後半:宮内康乃&つむぎね(音楽パフォーマンス)	約100名
14	2009年11月24日	プロムナードコンサート	*星野匡郎(ピアノ)、斉藤純一(ギター)	約40名
15	2009年12月14日	プロムナードコンサート	雨宮愛美(ピアノ)	約100名
16	2013年7月26日	プロムナードコンサート	アレキサンダー・ムースブルガー(ピアノ、ドイツ)	約60名
17	2014年10月22日	プロムナードコンサート	*竹森那由多(ピアノ) *川村 弥(ピアノ)	約80名

表3 エントランスホールコンサート

	開催日	タイトル	公演者等	参加人数
1	2005年10月18日	エントランスホールコンサート	長谷川真紀(教員の家族・ピアノ)	約30名
2	2005年12月8日	エントランスホールコンサート	岩澤菜有子(学生・ピアノ)	約30名
3	2005年12月14日	エントランスホールコンサート	味埜裕子(職員・ピアノ)、土肥由美子(友人・ピアノ)	約30名
4	2006年1月31日	エントランスホールコンサート	今谷 宏(学生・ピアノ)	約30名
5	2006年3月15日	エントランスホールコンサート	桑原 陽(学生・ピアノ)、福島紘子(職員・ピアノ)	約40名
6	2006年6月6日	エントランスホールコンサート	シディック・ヤーマン(教授・ピアノ)、柴村次宏(職員・ピアノ)	約60名
7	2006年6月19日	エントランスホールコンサート	高井悠紀子(学生・ピアノ)、青島由佳(学生・ヴァイオリン)	約50名
8	2006年6月29日	エントランスホールコンサート	粕谷哲夫(学生・ピアノ)、進藤千晶(学生・ヴァイオリン)	約40名
9	2006年7月13日	エントランスホールコンサート	菊池信輝(学生・ピアノ)、後藤玲央(学生・ピアノ)	約50名
10	2006年10月19日	エントランスホールコンサート	鈴木 翔(学生・ピアノ)	約40名

11	2006年12月5日	エントランスホールコンサート	内藤小容子(学生・ピアノ)、佐藤 俊(学生・ヴァイオリン)	約50名
12	2006年12月7日	エントランスホールコンサート	桑原 陽(学生・ピアノ)	約40名
13	2007年1月18日	エントランスホールコンサート	松尾和紀(学生・ピアノ)、柴村次宏(職員・ウクレレ)	約40名
14	2007年1月19日	エントランスホールコンサート	シディック・ヤーマン(教授・ピアノ)	約60名
15	2007年2月5日	エントランスホールコンサート	福島紘子(職員・ピアノ)、志村綾子(ピアノ)、藤本園美(フルート)	約50名
16	2007年2月8日	エントランスホールコンサート	岩澤萌慧子(学生・ピアノ)、三入梨沙(ピアノ)、 高橋幸江(ヴァイオリン)、吉田友美(ヴァイオリン)、 佐藤麻実(ヴァイオリン)、菅原佳奈子(ヴィオラ)、 竹本聖子(チェロ)	約40名
17	2007年4月18日	エントランスホールコンサート	坂本顕子(学生・ピアノ)	約70名
18	2007年5月8日	エントランスホールコンサート	大熊政明(教授・ピアノ)、松原亮子(職員・ピアノ)	約60名
19	2007年6月9日	エントランスホールコンサート	西浦千晶(OB・ピアノ)	約60名
20	2007年6月11日	エントランスホールコンサート	浦井裕子(学生・ヴァイオリン)、工藤祐樹(学生・ピアノ)	約60名
21	2007年6月22日	エントランスホールコンサート	竹森那由多(学生・ピアノ)	約50名
22	2007年6月27日	エントランスホールコンサート	関根弘揮(学生・クラシックギター)	約40名
23	2007年10月30日	エントランスホールコンサート	川村弥(学生・ピアノ)	約50名
24	2007年11月8日	エントランスホールコンサート	本島佳祐、佐々木雄希、堀井大輔、田仲祐士、 山岸拓也(学生・木管五重奏)	約50名
25	2007年12月5日	エントランスホールコンサート	森宏之、阿出川卓郎、朝倉祐介、中原悠希(学生・クラリネット四重奏)	約50名
26	2008年3月24日	エントランスホールコンサート	福田牧葉、佐藤至(学生・ヴァイオリン・ヴィオラ二重奏) 森宏之、青木雅英、生野秀明、兼先宏典、塚本隆史(学生・木管五重奏)	約50名
27	2008年4月25日	エントランスホールコンサート	竹森那由多(学生・ピアノ)	約80名
28	2008年7月10日	エントランスホールコンサート	大竹進(学生・ピアノ)	約60名
29	2008年10月28日	エントランスホールコンサート	磯井美輪(学生・ピアノ)	約70名
30	2009年6月24日	エントランスホールコンサート	工藤祐樹(学生・ピアノ)	約60名

31	2009年7月1日	エントランスホールコンサート	本島佳祐(学生・フルート) 堀井大輔(学生・クラリネット) 川村弥(学生・ピアノ)	約80名
32	2009年7月16日	エントランスホールコンサート	森依里子(ソプラノ)、及川千晶(ソプラノ)、齋藤季子(職員家族・ピアノ)	約80名
33	2009年11月19日	エントランスホールコンサート	本島佳祐(学生・フルート) 川村弥(学生・ピアノ)	約40名
34	2009年12月1日	エントランスホールコンサート	大竹進(学生・ピアノ)	約40名
35	2010年6月24日	エントランスホールコンサート	竹森那由多(学生・ピアノ)	約50名
36	2010年7月16日	エントランスホールコンサート	川村弥(学生・ピアノ)	約60名
37	2010年7月23日	エントランスホールコンサート	綾田翔(学生・ピアノ)	約60名
38	2010年12月2日	エントランスホールコンサート	鳴島かほ里(職員・ピアノ) 餅田溪(学生・ピアノ)	約40名
39	2010年12月15日	エントランスホールコンサート	川村 弥(学生・ピアノ)	約60名
40	2011年1月7日	エントランスホールコンサート	宮原ひろ子(職員ご家族・ピアノ)	約20名
41	2011年1月26日	エントランスホールコンサート	越田絵理子(職員・ピアノ) こずえ(職員・ピアノ)	約50名
42	2011年6月22日	エントランスホールコンサート	竹森那由多(学生・ピアノ)	約40名
43	2011年6月23日	エントランスホールコンサート	こずえ(職員・ピアノ)	約40名
44	2011年6月28日	エントランスホールコンサート	本島佳祐(学生・フルート)、川村 弥(学生・ピアノ)	約40名
45	2011年6月30日	エントランスホールコンサート	岸本史直(学生・オーボエ)	約30名
46	2011年12月19日	エントランスホールコンサート	本島佳祐(学生・フルート) 川村弥(学生・ピアノ)	約50名
47	2011年12月20日	エントランスホールコンサート	綾田翔(学生・ピアノ)	約40名
48	2011年12月22日	エントランスホールコンサート	餅田溪(学生・ピアノ) 岸本史直(学生・ピアノ)、会田侑正(学生・ピアノ)	約40名
49	2012年1月31日	エントランスホールコンサート	石川勲(学生・ピアノ)	約20名
50	2012年6月28日	エントランスホールコンサート	伊藤 智夏(職員・ピアノ) 岸本史直、石津真樹、会田侑正(学生・三重奏)	約100名

51	2012年7月3日	エントランスホールコンサート	竹森那由多(学生・ピアノ) 川村弥(学生・ピアノ)	約60名
52	2012年7月20日	エントランスホールコンサート	田村智比古(学生・ピアノ) こずえ(職員・ピアノ)	約50名
53	2012年7月26日	エントランスホールコンサート	青木祐太(学生・ピアノ)	約30名
54	2013年1月17日	エントランスホールコンサート	荻野紗良(学生・ヴァイオリン)、荻野恭子(ピアノ伴奏) こずえ(職員・ピアノ)	約80名
55	2013年1月22日	エントランスホールコンサート	原田真実(学生・ピアノ) 岸本史直(学生・オーボエ)、影島洋介(学生・ヴァイオリン)、 会田侑正(学生・ピアノ)	約80名
56	2013年1月24日	エントランスホールコンサート	伊藤智夏(職員・ピアノ)	約60名
57	2013年1月29日	エントランスホールコンサート	山野花穂(学生・ピアノ) 青木祐太(学生・ピアノ)、荻野紗良(学生・ヴァイオリン)	約80名
58	2013年5月28日	エントランスホールコンサート	増田祐佳子(学生・ピアノ)	約30名
59	2013年6月5日	エントランスホールコンサート	青木祐太(学生・ピアノ) 倉重宏康(学生・ギター)	約40名
60	2013年6月26日	エントランスホールコンサート	竹森那由多(学生・ピアノ) 青木祐太(学生・ピアノ)、荻野紗良(学生・ヴァイオリン)	約50名
61	2013年6月28日	エントランスホールコンサート	山野花穂(学生・ピアノ) 川村弥(学生・ピアノ)	約50名
62	2013年7月3日	エントランスホールコンサート	原田真美(学生・ピアノ) 荻野紗良(学生・ヴァイオリン)、荻野恭子(ピアノ伴奏)	約50名
63	2013年7月10日	エントランスホールコンサート	会田侑正(学生・ピアノ) 岸本史直(学生・オーボエ&Eホルン)、山野花穂(学生・ピアノ)	約50名
64	2013年10月21日	エントランスホールコンサート	桑原陽(卒業生・ピアノ) 稲川有徳(学生・ハーモニカ)、和谷麻里子(ピアノ伴奏)	約50名
65	2013年11月22日	エントランスホールコンサート	青木祐太(学生・ピアノ) 原田真実(学生・ピアノ)	約30名
66	2013年11月28日	エントランスホールコンサート	三宅雅也(学生・フルート)、遠藤直輝(学生・ピアノ) 増田祐佳子(学生・ピアノ)	約40名
67	2014年6月6日	エントランスホールコンサート	増田祐佳子(学生・ピアノ) 三木優足(学生・ヴィオラ)、石津真樹(学生・ピアノ)糸矢航(学 生・クラリネット)	約30名

68	2014年6月16日	エントランスホールコンサート	中村純子(卒業生家族・ピアノ) 会田侑正(学生・ピアノ)、岸本史直(学生・オーボエ)	約30名
69	2014年7月2日	エントランスホールコンサート	小泉 大哉(学生・ピアノ) 相馬 啓亮(学生・ピアノ)	約40名
70	2014年10月9日	エントランスホールコンサート	三木優足(学生・ヴィオラ) 石津真樹(学生・ピアノ) 糸矢 航(学生・クラリネット)	約40名
71	2014年10月20日	エントランスホールコンサート	三宅雅也(学生・フルート) 遠藤直輝(学生・ピアノ)	約50名
72	2014年11月5日	エントランスホールコンサート	増田祐佳子(学生・ピアノ) 中村純子(卒業生家族・ピアノ)	約30名
73	2015年6月18日	エントランスホールコンサート	上田敬人(学生・ピアノ) 三宅雅也(学生・フルート)、五十嵐和幸(学生・フルート)、遠藤 直輝(学生・チェロ)	約60名
74	2015年6月24日	エントランスホールコンサート	山野花穂(学生・ピアノ) 中村純子(卒業生家族・ピアノ)	約40名
75	2015年7月10日	エントランスホールコンサート	村松彩香(学生・ピアノ) 福澤道子(教育研究支援員・声楽(メゾソプラノ))	約40名

Art at Tokyo Tech の活動は2007年以降、年度ごとに、テーマを決め、それにそった芸術家を招聘しております。これは、同じシーズンに行われるメインイベントが連携し、全体として参加者の意識と感性を揺り動かすことを目指したためです。2007年から2013年までは、『異邦からのまなざし』の共通テーマのもとに、東工大の活動を世界的視点から見直す、サブテーマを毎年決めておこなってきました(詳細は表1をご覧ください)。また2014年は東工大ベヒシュタインピアノが製造されて90年を迎えたことを記念しておこなわれました。テーマの設定は学外からのリピータがあり効果的であったと思えます。

### Art at Tokyo Tech の教訓

これまでの76回のメインイベント、17回のプロムナードコンサート、75回のエントランスホールコンサートの参加人数はメインイベントで10450名、平均140名の参加、プロムナードコンサートで1700名、平均100名、エントランスホールコンサートは3660名、平均50名となります。これらは少なくない値だと言えるでしょう。また時系列的に参加者の推移を示しました(図1、2)。これから読み取れることは、2004-7年と比較してその後、参加者数は減少傾向に有るということです。これは学外の参加者が、比較的有名な講師や演奏家の行事に集中する傾向が有る為と考えられます。また、2006年以降招聘した美術家は現代芸術作家であるため、現代美術の難解さから、多くの学外者はこれを敬遠したとも考えられます。しかし学生の直接参加が有るエントランスコンサート(写真1)や東工大のラテンジャズビッグバンド、ロス・ガラチェ



写真1 世界大会で活躍した学生のハーモニカの熱演(エントランスコンサート)

ロスの演奏会の参加人数は現時点でもあまり変化有りません。このことは、学生諸君の参加が少なくとも参加者数という点から行事の実施にとって不可欠だということだと思います。

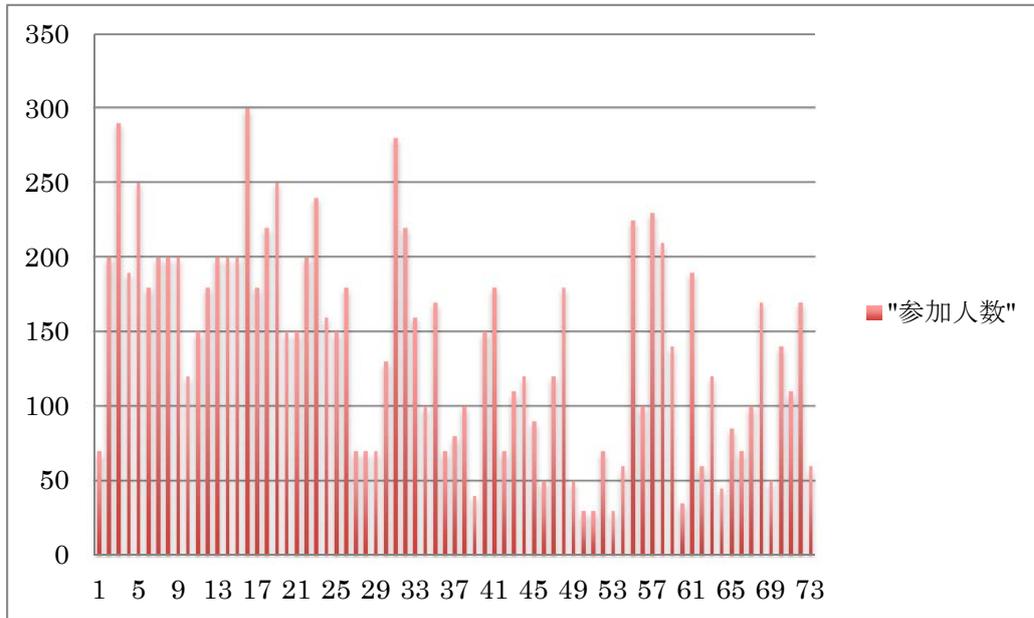


図1 メインイベントの参加人数

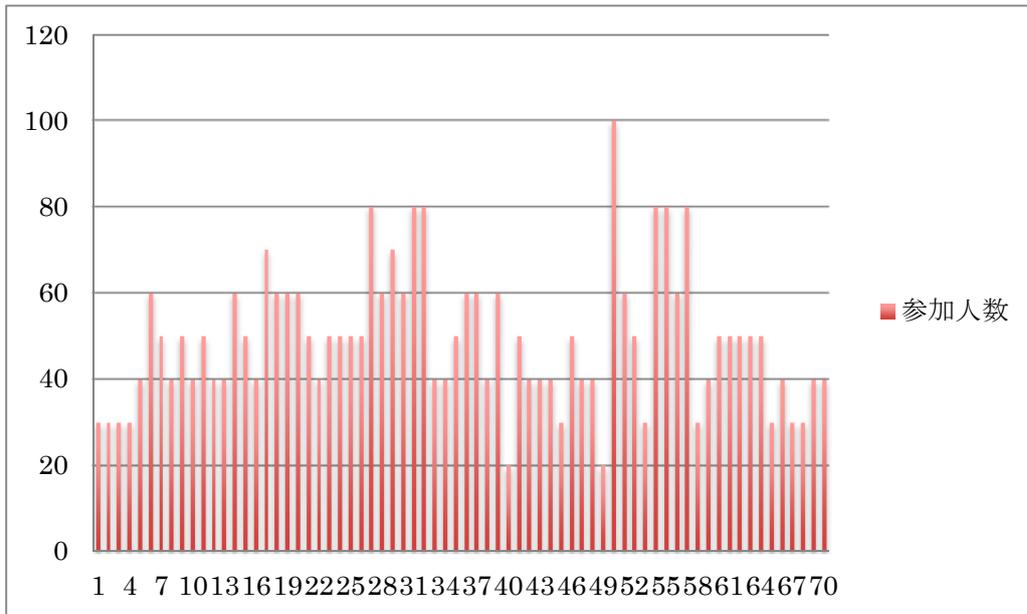


図2 エントランスホールコンサートの参加人数

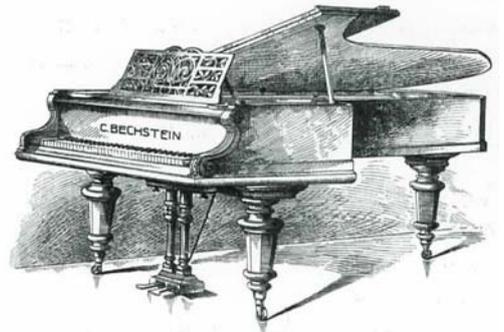
つぎに、Art at Tokyo Tech のもたらす質的な効果について考えてみたいと思います。まず、特別に才能の有る東工大学生諸君の参加はすでに当初からなされていました。しかし一般の学生が受講する講義との関係が明確になったのは、2007年のジュネーブのコンソルバトワールの正教授であるフローレンス・シトラックのハープを基本とする音に関する講義からです。この講義ではハープの演奏技術を学ぶのではなく、音楽の基本となる感性に関するものでした。その後、世界的なサウンドアーティストである鈴木昭男による音の創造と、京都賞を受賞した現代ダンスの巨匠であるピナ・バウッシュの率いたカンパニーのダンサーであるジャン・ローレン・サスポータスのパフォーマンスの講義がなされました。とくに、後者の講義の成果発表会となった2008年の学生のパフォーマンスはサスポータスの演技を超えるほどの出来でありました。このような経験から、2013年のベヒシュタインピアノの90年記念プログラムでは、学生諸君の参加を大幅に取り入れた、公開オーディシ

ジョンとイヴ・アンリ、パリコンセルバトワール（国立パリ高等音楽院）のピアノ科正教授による公開マスタークラスを実施しました。これは東工大という理工系大学で世界最高の音楽教育が受けられるという、多分我が国の歴史始まって以来の行事となりました。さらに2014年の伊藤直子のマドモワゼルシネマと学生の競演による、東京物語はダンスシアターの地平を広げるものとなりました。

これらの行事に参加した学生諸君のこぼれ話を紹介したいと思います。

Aさん：貴重なベヒシュタインピアノ（写真2）が東工大で保管されていたというのが重要であり、あのピアノの存在なしでは語れないと思います。ピアノは数多くの楽器の中で最も多くの技術が注入された技術の結晶ともいえる精密機械（メカ）であり、特にそれも古いものとなればエンジニアの卵である東工大の学生は、音楽に興味がなくてもそれなりの興味を持って接するものかと思えます。つい最近、音楽にそこまで縁が無い研究室の学生数人が目の前にあるピアノについていろいろ話していたのが印象的でした。当時のエンジニアの知恵を結集した機械製品に対して特別な接し方をする文化がある東工大の土壌は非常に重要かと思えます。学業や研究を進める上では、精神的疲労からの解放というヒーリング効果ももちろんですが、特に研究においては芸術に触れることで新たなアイデアや解決法を得ることも期待できます。

Bさん：イヴ・アンリ先生のマスタークラス（写真3、4）に参加し、先生の指導を受けて「こんな風な楽譜の捉え方があるのか」「こういう解釈ができるのか」と一気に視野が広がったと記憶しています。この時から身に付け始めた楽譜を精読・分析する習慣や、曲を大掴みに捉える力は、学業を修める上でも大変役立っているように感じます。Art at Tokyo Techの存在は、どれだけ学業が忙しくなっても、音楽にふれ、心を豊かに保つのを助けてくれています。Art at Tokyo Techに小学生の時に参加して「東工大には立派なグランドピアノがあるんだなあ」という認識も、受験校を決めるに至った大きな理由の一つになっていたように思います。



Modèle E. Grand modèle de concert  
à 7 octaves 1/2, du la à l'ut  
à Cordes croisées - Châssis en métal - Sommier recouvert de métal -  
Mécanique à répétition.  
Longueur 2 m 70 - Largeur 1 m 57

写真2 ベヒシュタインピアノ



写真3 イヴ・アンリ教授のマスタークラス参加者



写真4 マスタークラスの様子

Cさん：学業・研究を進める上での効果はみんなで何かを作る達成感が得られ、グループワークの良さを知ることができます。また創造性や独創性に関して、伊藤直子先生の授業は普段の何気ない生活や自分の中の気持ちからの気づきを学生から引出し、それを動きとすることが多い（写真5、6）。研究もひよっとした気づきから生まれるのかもしれない。一人で考えるのもいいけど、みんなで考えた方が良いものが創れる。でも、それは最初に他人任せにしないでひとりひとりが考えを練らなければならないというプロセスは非常に重要だと

おもいます。

Dさん：伊藤直子先生は一見とても些細なことにでも着目をして、とても発想力豊かな振り付けを構成していきます。その様子を見て感じたことがこの授業の中で最も僕にとって重要なことなのですが、学業や研究、またそれ以外のことに対して(例えば人と話をするときなど)、自分の感受性を最大限に開くことが物事への取り組みに独自の発想力が加えることに繋がり、より強い影響を人に与えることに結び付くということを感じました。



写真5 コンテンポラリーダンス東京物語1



写真6 コンテンポラリーダンス東京物語2

このように、Art at Tokyo Tech は学生諸君への教育、研究推進およびセラピーなど多方面で大きな効果があることが証明されていると思います。

最後に大学の社会貢献という観点から、Art at Tokyo Tech を捉えてみたいとおもいます。大学の社会貢献がその本来の機能である教育、研究に基づいた独自の発信で有るとすれば、Art at Tokyo Tech における学生のパフォーマンスはその最たるものでしょう。

東京物語(2014年6月)のイベントに参加した学外者の感想をアンケートから紹介すると

Xさん：信頼されるものづくりをしたいとって後ろに倒れ、仲間が支える。ピナ・バウッシュのシーンにも

ありますが、日本/アジアのものづくりの信頼を、アートの融合で表現する。本当に面白かったです(写真7)。

Yさん：発想が自由なのでとても面白かったです。学生さんもとても素直にダンスしていて、新しい印象でした。せりふや歌も新鮮でした。

以上の考察から判るように、Art at Tokyo Tech は東工大におけるArtの復興ばかりか、学生の教育、研究、精神涵養の面、および社会への発信におおきく寄与したことが判ります。

今後さらにこれを定着させるためには、

- 1) 世界で活躍する芸術家による、まとまった講義(2単位)の学生の創造的かつ真剣な参加が必要であり、つまり言語化されたリレー講義は適さない。
- 2) 世界に広がったパフォーマンスアート(すなわち音の演奏や身体的活動をふくむ芸術)を基軸とし美術映像を含む総合芸術の推進を進めること。
- 3) 特定の才能に秀でた学生ではなく、誰でも参加可能な芸術、空間のモノの創作とパフォーマンスを一体化することが望ましいといえるでしょう。

このために、学内の講義科目の整備、展示スペースを含む音響、照明の有る学外にも開かれたパフォーマンス



写真7 コンテンポラリーダンス東京物語3

スのおこなえる芸術空間の創設が不可欠だと思います。

筆を置くにあたって、関連された教員の方々、社会理工学研究科事務グループの皆様、文化庁長官、ルクセンブルグ大使夫妻を始めとする 17000 名を超える参加者等多くの方の協力によってこの事業が可能となっていることを明記し、これらの方に心から感謝申し上げたいと思います。

#### 参考文献（全て東工大クロニクル）

- ・東工大の美をつくりだすベヒシュタインピアノの 90 年—Art at Tokyo Tech 2013—, 490, 2-5, 2013
- ・異邦からの眼差し—Art at Tokyo Tech 報告(2), 448, 7-12, 2009
- ・異邦からの眼差し—Art at Tokyo Tech 2007 秋—2009 春—報告(1), 447, 6-10, 2009
- ・文明科目芸術ワークショップ 2008B+Art at Tokyo Tech 報告, 439, 4-5, 2009
- ・異邦からのまなざし—Art at Tokyo Tech 2007 Autumn and Winter プログラム—, 425, 8-11, 2007
- ・There are several ways to Paradise, 424, 8-11, 2007
- ・Art at Tokyo Tech—歴史と展望, 422, 9-15, 2007
- ・Art at Tokyo Tech—大岡山キャンパス西 9 号館の Arts, 421, 8-11, 2007
- ・Art at Tokyo Tech—東工大のベヒシュタインピアノの製造時期について—, 420, 13-16, 2007
- ・セントアイヴス、浜田庄司、アルフレッドウォリス、そしてケルトルズヤード, 376, 12-14, 2003

## 文明科目のこれまでの経緯と 2015 年度カリキュラム

名誉教授 前文明科目実施委員会委員長 肥田野 登

世界文明センターは 2006 年に設立され、その教育面での活動の一環として、文明科目を 2007 年度から開設し、これまで学部大学院の教育の一翼を担ってまいりました。2015 年には 8 年間の経験をふまえ、カリキュラム改訂を行いました。本稿ではこのカリキュラムに行き着く間での経緯と新カリキュラムの狙いについて述べてみたいと思います。

新しいカリキュラムが構想されるまでには、様々な試行錯誤がありました。文明科目は、それまでの所謂文系科目とは異なり、人文学と芸術を教授することを目的としスタートしました。人文学に関しては、当初は知名度の高い学内外の講師の方に大教室での講義をお願いしました。また芸術に関しても、音楽家からダンサーまで多様な分野の方に講師に就いていただき、芸術全般を幅広く教授しました。芸術科目の一部はワークショップという実技の伴うものでした。

ところが、人文科目に関しては文系科目との差別化が困難になり、また所謂、単位を取りやすい科目として学生に認知される科目が出てきました。座学を中心とした芸術科目でも大人数の科目ではこのことが、当てはまることもありました。

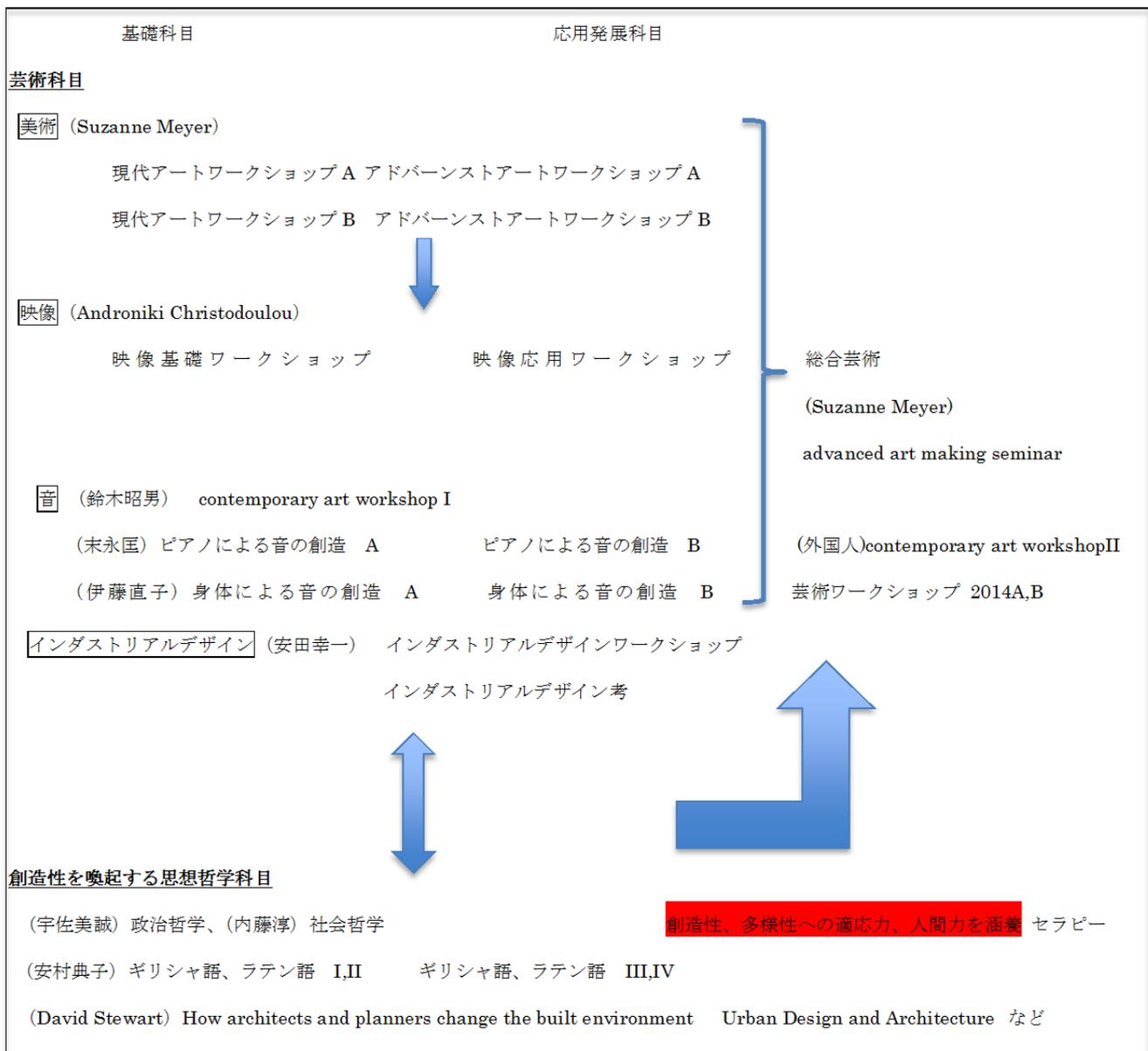
そこで 2011 年に外部の専門家に、全ての授業に複数回出席し、授業ごとにレポートを作成していただきました。その結果から、国際的水準に達していないと判断された科目は順次廃止しました。また合格者の平均点を 80 点程度にするように講師の方をお願いしました。その結果、学生の満足度は高く、かつ簡単に単位をとれる授業はほとんどなくなりました。

しかしながら、文明科目の人文学系の科目における言説と評論を中心とした授業では学問的方法論が明確でなく、一般教養としての知識の教授以上の効果がないこと、また所謂文系科目の差別化は不可能で有ることが

明確になりました。そこで 2013 年度に建築学専攻の安田幸一教授がセンター長に就任されたことを契機に、人文科目は基本的に廃止し、芸術を支える思想に関して特化した講義を残すことにしました。すなわち政治哲学、社会哲学、西洋古典語である古典ギリシャ語、古典ラテン語です。一方芸術科目は原則的にワークショップ科目に限定しました。

新カリキュラムは図 1 に示す通りです。基本的にものつくりと連関する芸術分野に限定し、かつ単なる知識でなく、実践する力を身につけてもらうために、カリキュラムが基礎科目と応用発展科目により構成されています。また、芸術の基本は、技術ではなく、独自の発想とそれを表現することであるから、誰もが出来る、空間芸術である美術と写真を中心とする映像を基本としています。音楽などの時間芸術は技術に負うところが大きいので基礎科目からはずし、逆に時間芸術の真の考え方を学ぶ為に、楽器や声楽の特別な技術を持たない学生が参加できる、音を基本とした contemporary art workshop I を設置し、そのあとで、容易に音を出せるピアノ、身体をつかったワークショップと展開していく方法論を取りました。更にこれらを統合したワークショップが発展段階に用意されています。

図 1 2015 年度文明科目のカリキュラム



さらに安田教授のイニシアティブで、芸術のセンスを工学に生かすために、インダストリアルデザイン科目が行われています。この科目群はいわゆる工学的な問題解決ではなく、美的視点から問題を自ら抽出し、それ

を解決することを課題としています。

新しいカリキュラムの特色は以下の3点です。

- 1) ものづくりの原点に戻り、抽象的な言説でなく、具体的な形を作り出すことを目的としています。  
(写真1、2)
- 2) 過去にとらわれた模倣ではなく、真の意味で独創的かつ創造的な発想とそれを具体化できる能力を涵養します。(写真3)
- 3) グローバル化、国際化を前提として、世界水準での教育を日本人学生と留学生が、ともにバリア無く参加できる、英語日本語の授業を実施します。(写真1、2、3)



写真1 Kinji Akagawa 氏のベンチ創作



写真2 Androniki Christodoulou 氏による映像創作



写真3 Suzanne Meyer 氏による美術創作

また重要なことは芸術科目の講師陣が全て国際的に活躍されているアーティストであることです。これは、これまでの経験から芸術はアーティストからしか学ぶことはできないためです。それは、芸術は論理を超えているものであって、論理的に説明することが求められる学者、例えば美術史家、から過去のロジックを超えた新たな発想を学ぶことが極めて困難である為です。

それでは芸術は本当に東工大に必要なのか？芸術科目が果たして科学技術の真の意味での創造性、創造性につながるのだろうか？あるいは、芸術は特別な才能のある人だけのものであって、たとえ一般の学生に教授したとしても真の実力が学生自身に宿るのだろうか？という疑問がでてくると思います。

これらの点に関して、多くのブレイクスルーした古今東西の科学技術者は、全てこれまでの伝統的、定説を覆していることから、真に創造的な現場は無から有をつくり出す、芸術行為と何ら異なることはなく、芸術の発想と、それをものとして現実化する力は、科学技術の発展に寄与することは間違いないでしょう。東工大が目指す、世界トップテンの大学になるためにはこのような教育が不可欠であると思います。また芸術が特別な才能の持ち主のもので、通常の科学技術者とは無関係というのは、若干芸術に関して誤解があると考えます。現代の芸術は、16世紀のミケランジェロ、17世紀のレンブラントや18世紀のモーツァルトの時代とは異なり、全ての人が、0からスタートしていかに個人を表現するかということに力点が有ります。現代において技術的な美しさは機械によって作り出すことが可能になっているため、技術を先行して身につけないと、芸術が作り出せないというわけではありません。むしろ3、4歳から英才教育によって特別な才能が有る子供を教育することは、過去にとらわれた技術の継承となる可能性がたかく、その子供の本来の創造性を否定することもあり得るのです。現代芸術では、日常的生活の中で、いかに過去にとらわれずに、新たな発想が出来るかが大切になります。従ってこれまで芸術体験がなくても、大学時代に真の芸術創造をおこなえば、これまで見えていなかった

reality に気づくことになり、多くの学生にとって大きなプラスになると思います。

ここで文教科目を学び、現在他大学の博士課程に在学している卒業生の意見を紹介したいと思います。

「私が東工大に入った時には他の多くの学生と同様、文明センターの主催するような文化・芸術に関する授業にはあまり期待していませんでした。大学で得られるものは純粋に専門の知識であると考えていたからです。しかし東工大で学部・修士を過ごし終えた後に気がつくのは、私にとって大学時代の最も重要な学びの多くを文明センターの授業から得ていたということです。

学生が専門で学ぶ学問は数式や言語を用い、何が真実に近いか、もしくは近いらいかに実証なり論証することを目的とするものです。そこには常に「正・誤」を定めようという動機が働きます。学問は大変有用です。しかし何が「正しい」かが固定化されるときが、学問の行き詰まるときではないでしょうか。「失敗を恐れず新しいやり方に挑戦しよう」というメッセージを発信することがあります。では学生はどうやってこのような話を自分に応用すればいいでしょうか。実際には失敗が非難される対象であると信じられている社会の中で、どうやって失敗することを学んでいけばいいでしょうか？

文明センターが教える芸術の方法論は試行錯誤を学ぶ場として際立って有効であると思います。芸術を通して試行錯誤の体験を学ぶとき、学生は「失敗」という言葉についてまわる緊張や恐怖から自由な立場で発想することが許されます。私が文明センターの授業において最も驚いた点は、そこで「正・誤」ないし「勝・敗」の価値観がほとんど重要視されないように思えたことです。その代わりに教義や慣習によりかかるのではなく自分の言葉や表現で発信することを徹底的に要求されます。その過程であらゆる試行錯誤を経験し、実際に失敗が予想していたものより遥かに上回るすばらしい答えを導くことがあることを、偉人の体験談ではなく自らの経験として、極めて短時間のうちに知ることができるのです。このような経験は学問や実務に帰った時に必要な、自ら発言する態度や新しい選択肢を試みる勇気を養う土台となりました。また、国内外の芸術家、留学生たちとの関わりを持つことができたことも私にとって大きな財産となりました。異分野の人間同士が互いに興味を持ちながら、英語日本語問わず何とかコミュニケーションをとりあおうとする授業の雰囲気は文明センターにしかない独特のものであったと思います。私個人としても、長期休暇には講師の方々を尋ねて京都、アメリカ、ドイツに滞在することができたのも、文明センターでの非常にインタラクティブなやりとりの結果でした。

文明センターは技術を教えませんし、授業内容は実際的でないように見えます。しかし、ノーベル賞受賞者や学長の入学式でのスピーチで謳われるような「失敗を恐れず」「自由に」「グローバルに」といった価値をどうやって体現していくのか、その非常に具体的な機会と方法を文明センターは示していました。その意味で、私にとって文明センターの科目は東工大で最も实际的であり、それらの価値を体験する貴重な学びの場になりました。」

最後に今後の予定について触れたいと思います。2016年1月20日夜には文教科目の新しいカリキュラムに基づき、身体による音の創造 B、ピアノによる音の創造 B、Advanced art making seminar の参加者全員が共同して、ダンスと音と舞台芸術を創作するイベントを企画しております。皆様の参加とご支援を今後とも心からお願いいたします。また世界文明センターの活動の詳細につきましては HP をご覧ください ([www.cswc.titech.ac.jp/](http://www.cswc.titech.ac.jp/))。

#### 参考文献

- ・ エスター・パルテガスの《Trans-》展と文教科目 Art Work Shop 2010 B 報告,東工大クロニクル,464,12-15,2011
- ・ 大学院広域科目"Contemporary Art Workshop" (sometime? And somewhere?) 報告,東工大クロニクル, 463,23-24,2011
- ・ Santiago Cucullu"八日間展"(The Eight Days)と文教科目芸術ワークショップ 2010A 報告(2),東工大クロニクル, 459,15-17,2010

- Santiago Cucullu"八日間展"(The Eight Days)と文明科目芸術ワークショップ 2010A 報告(1),東工大クロニクル, 458,30-31,2010
- Juan Cruz 文明科目 芸術ワークショップ 2009B 報告 (その2) ,東工大クロニクル,456,10-12,2010
- Juan Cruz "Translating: Chapter 3" 展および文明科目芸術ワークショップ 2009B 報告 (その1) , 東工大クロニクル,455,5-8,2010
- 異邦からの眼差し—Art at Tokyo Tech 報告(2),東工大クロニクル,448,6-10,2009
- 文明科目芸術ワークショップ 2009Aと Rob Fischer 展報告,東工大クロニクル,440,17-20,2009
- 東工大における芸術教育の新たな試み—ワークショップ、展覧会、パフォーマンスの融合—文明科目芸術ワークショップ 2008B+Art at Tokyo Tech 報告,東工大クロニクル,439,4-5,2009
- 芸術ワークショップ 2008A 報告(2) ,東工大クロニクル,436,9-11,2008
- 芸術ワークショップ 2008A 報告(1),東工大クロニクル,435,3-8,2008
- 芸術ワークショップ 2007B レポート,東工大クロニクル,429,12-14,2008
- There are several ways to Paradise,東工大クロニクル,424,8-11,2007
- Assessment Report on CSWC, Tokyo Tech,世界文明センター,2011

**東工大クロニクル**

No.506

2015年7月31日 東京工業大学広報センター発行

©東工大クロニクル企画チーム

編集長 小野 功 (大学院総合理工学研究科准教授)

陣内 修 (大学院理工学研究科准教授)

住所 : 〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1-E3-13

TEL:03-5734-2975, 2976 FAX:03-5734-3661

E-mail:publication@jim.titech.ac.jp

URL: <http://www.titech.ac.jp/about/overview/publications.html#h3-7>

ISSN 1349-9300